

5/19

## 第412回 定期演奏会

The 412th Subscription Concert

ロフェ初登場! フランス音楽への誘い

5月19日(金)開演:午後7時

19th May (Fri.), 2023 19:00

アクロス福岡シンフォニーホール

ACROS Fukuoka Symphony Hall

指揮 パスカル・ロフェ  
Conductor : Pascal Rophéピアノ 坂本彩・坂本リサ  
Piano : Aya Sakamoto, Risa Sakamotoコンサートマスター 西本幸弘  
Concertmaster : Yukihiro Nishimotoポール・デュカス  
Paul Dukas

## 交響詩「魔法使いの弟子」

Symphonic Poem "L'Apprenti sorcier (The Sorcerer's Apprentice)"

フランシス・プーランク  
Francis Poulenc

## 2台のピアノのための協奏曲 二短調 FP.61

Concerto for 2 Pianos and Orchestra in D Minor FP.61

- I. Allegro ma non troppo
- II. Larghetto
- III. Finale. Allegro molto

休憩 intermission

イーゴリ・ストラヴィンスキー  
Igor Stravinsky

## 交響詩「ナイチンゲールの歌」

Symphonic Poem "Le chant du rossignol (Song of the Nightingale)"

モーリス・ラヴェル  
Maurice Ravel

## 「ダフニスとクロエ」第2組曲

"Daphnis et Chloé" Suite No.2

- 1. 夜明け Lever du jour
- 2. パントマイム Pantomime
- 3. 全員の踊り Danse générale

## ご来場のお客様へ

本公演終了後に、ロビーにて楽団員融資が皆様をお見送り致します。  
わずかな時間ではございますが、お気軽にお声がけください。

※〈プログラムノート〉はP.7~P.11をご覧ください。

主催／(公財)九州交響楽団

協賛／椎木正和

協力／(公財)アクロス福岡

助成／(公財)アフィニス文化財団

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
福岡県・福岡市後援／福岡県・福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・NHK福岡放送局・  
(公財)九州文化協会・福岡文化連盟・九響後援会

指揮

パスカル・ロフェ

Conductor

Pascal  
Rophé

©B Ealovega

2014～22年まで、フランス国立ロワール管の音楽監督を務め、2022年9月から、クロアチア放送響の音楽監督に就任。パリ国立音楽院を卒業後、1988年のブザンソン国際指揮者コンクールで第2位。その後1992年から、ブーレーズやロバートソンとともにアンサンブル・アンテルコンタンポランを指揮した。レパートリーは現代音楽と18-19世紀の交響楽作品を共に扱うバランス感覚をもって、ベートーヴェンからストラヴィンスキー、ブーレーズに至る楽曲を、フランス国立管、フランス放送フィル、フィルハーモニア管、BBC響、スイス・ロマンド管、SWR響、N響、ソウル・フィルなどと演奏している。

オペラにも力を入れ、ローマ歌劇場で《タイス》、グラインドボーン・ツーリング・オペラで《ペレアスとメリザンド》、ブダペストで《さまよえるオランダ人》《カルメル派修道女の対話》、パリ・オペラ座でマントヴァーニの《アフマートヴァ》を指揮するなど、この分野でも活動は多岐にわたる。録音も多く、フランス放送フィルやBBC響などと共演したディスクが多くの賞を受賞している。フランス国立ロワール管とは、デュディュー、デュサパン、デュカス、ルーセル、ドビュッシー、ラヴェルなどを取り上げたCDをBISレーベルから立て続けにリリースし、好評を得ている。

Pascal Rophé who collaborated closely with Pierre Boulez is one of France's most sought-after conductors. He is currently Music Director of the Croatian Radio and Television Symphony Orchestra after completing a 9-year tenure as Music Director of the Orchestre National des Pays de la Loire.

Known as one of the foremost exponents of the 20th century repertoire and invited regularly by all the major European ensembles dedicated to contemporary music, he has also built up an equally enviable reputation for his interpretations of the great symphonic repertoire of the 18th and 19th centuries.

He works with many major orchestras including Orchestre National de France, Orchestre Philharmonique de Radio France, BBC Symphony, Suisse Romande, RAI Torino, and NHK Symphony.

His last two recordings, one with the Orchestre National des Pays de la Loire and the other with the Tapiola Sinfonietta, are composed of works by Ravel (Cantates pour le prix de Rome) and Canteloube (Chants d'Auvergne).

5.19 金 第412回 定期演奏会

ピアノ  
坂本 彩・坂本リサPiano  
Aya, Risa  
Sakamoto

© Ayane Shindo

第70回ARDミュンヘン国際音楽コンクールピアノデュオ部門において、日本人デュオとして初の第3位入賞・併せて聴衆賞を受賞。第7回国際ピアノデュオコンペティション(ポーランド)、第21回シュベルト国際ピアノデュオコンクール(チェコ)にて第1位を受賞するなど、国内外のコンクールにおいて入賞を重ねる。2022年3月、日本センチュリー交響楽団定期演奏会において、久石譲作曲「Variation 57〜2台のピアノのための協奏曲〜」管弦楽版を作曲者自身による指揮のもと世界初演。東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、バイエルン放送交響楽団、ウィーン放送交響楽団と共演するほか、日本とドイツを拠点に積極的な演奏活動を行っている。NHK「クラシック倶楽部」「ベストオブクラシック」「囲碁フォーカス」、フジテレビ「めざましテレビ」他、テレビや新聞などのメディアにも多数取り上げられる。姉妹ともに東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程ピアノ科で学び、ドイツ国立ロストック音楽大学ピアノデュオ科修士課程を最優秀の成績で修了。現在、同大学の国家演奏家資格課程に在籍。ピアノデュオを田中美江、加藤真一郎、伊藤恵、Hans-Peter Stenzl & Volker Stenzlの各氏に師事。姉妹共に福岡市出身。

Aya and Risa Sakamoto has won numerous national and international competitions including the first prize at the International Piano Duo Competition (2018), the first prize at the International Franz Schubert Piano Duo Competition (2019), the third prize and the audience prize at the ARD International Music Competition (2021).

For over 20 years now, they have performed as a piano duo in many concerts, recitals and with great orchestras not only in Japan but also in Europe and the U.S.A.

In 2019 they proceeded with their Master studies in piano duo with Prof. Hans-Peter Stenzl and Prof. Volker Stenzl at the Hochschule für Musik und Theater in Rostock and completed with top honors in 2022. Currently they're continuing their studies in the Konzertexamen at the same university.

## 5.19 金 第412回 定期演奏会

高坂葉月(音楽学者)

ポール・デュカス(1865-1935)

交響詩「魔法使いの弟子」

これはデュカスが31歳の時、ゲーテによる同名のバラードにインスピレーションを得て書いた作品で、「ゲーテによる交響的スケルツォ」というタイトルで発表された。バラードのあらすじは以下。

ある魔法使いのところで若い弟子が修行をしていた。ある日、師匠の魔法使いは、弟子に水汲み仕事を命じて外出した。一人で留守番をすることになった弟子はほうきに魔法をかけ、自分の代わりに仕事をさせようと思いつく。見よう見まねで魔法をかけると見事成功。ほうきはせっせと水汲み仕事を始めた。しかし弟子は、気づけばそれをやめさせる方法を知らなかった。そうこうする間にもますます熱心に水を汲むほうき。水が溢れ出し、いよいよ困った弟子は斧でほうきを真二つに割る。しかしその割れたほうきが立ち上がり、今度は二本のほうきがせっせと水を汲む。広間も階段の上もびしょびしょになり万事休すとなったとき、師匠が帰宅。ほうきにかけられた魔法を解除して一件落着。

このバラードを、デュカスはオーケストラの効果を最大限に用いて描写的に表現している。緊張感に満ちたミステリアスな雰囲気で幕開け。魔法をかけられたほうきが働く様子、次第につる弟子の焦り、緊迫した部屋の様子等が、打楽器の派手な使用も交えてスリリングに描き出されている。

作曲／1897年 初演／1897年パリ国民音楽協会の演奏会 編成／ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、ティンパニ、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、トライアングル、クロッキンシュピール、ハープ、弦5部  
使用楽譜／カルマス

## フランシス・プーランク (1899-1963)

### 2台のピアノのための協奏曲 二短調 FP.61

プーランクの母親はアマチュアピアニストで、いわゆるクラシックから通俗的な音楽までが溢れる家庭で育った。事業をしていた父親の跡取り息子として育てられたプーランクは音楽院には行かせてもらえず、作曲はほぼ独学で学んだという。彼が敬愛していたのはバッハ、モーツァルト、サティ、ストラヴィンスキー。彼らからの音楽的な影響に加え、プーランク自身の敬虔な宗教心と感性豊かな遊び心が混ざり合い、実に多様な面をのぞかせる作曲家である。

パリを拠点に活動していた当時の他の芸術家同様、プーランクもサロンに頻繁に出入りしていた。この協奏曲もサロンでの交流をきっかけに生まれた作品である。アメリカ生まれパリ育ちでサロンを主宰するウィナレッタという大富豪の女性(ポリニャック大公妃／シンガー・ミシン創業者の娘でもある)が、プーランクとジャック・フェヴリエをソリストとする協奏曲を依頼し、作曲された。

#### 第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo

ソナタ形式。ピアノが競い合うように対話しながら音楽が進む。金属的な響きや浮遊感を漂わせる反復音型などに、この創作の少し前にプーランクが博覧会で耳にしたガムランの影響もよく指摘される。

#### 第2楽章 ラルゲット

モーツァルトのピアノ協奏曲に言及するような旋律からスタート。そうしながらもプーランクの解釈で自身の色を重ね、洗練と遊び心の折り合いをつけながら飛躍するような楽章。

#### 第3楽章 フィナーレ、アレグロ・モルト

鋭く短いアタックに続き、急速なテンポで駆け回るトッカータ風の旋律が登場。センチメンタルな中間部をはさみ、第1楽章の輝かしい音響が回帰する。

作曲／1932年 初演／1932年9月5日、ヴェネツィア 編成／独奏ピアノ2、ピッコロ1、フルート1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、チューバ1、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、カスタネット、弦5部  
使用楽譜／サラベール

## イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882-1971)

### 交響詩「ナイチンゲールの歌」

ストラヴィンスキーは1908年、アンデルセン童話に基づくオペラ「ナイチンゲール」に着手して作曲を続けていたが、依頼主の倒産により計画が頓挫してしまった。その時に救いの手を差し伸べ、オペラ座での上演を後押ししたのが、すでに「火の鳥」(1910年)「ペトルーシュカ」(1911年)「春の祭典」(1913年)でタッグを組み、話題作とともに作ってきたロシア人興行師ディアギレフだった。ディアギレフがその後、この作品をバレエでも上演したいと依頼すると、ストラヴィンスキーはオペラの第2幕と第3幕を新たな交響詩として生まれ変わらせた。

舞台は中国の宮廷。人生に喜びを見いだせなくなった皇帝のために、使者たちが森へ赴き、美しい声で歌うナイチンゲールを探している。見つけた一羽のナイチンゲールを連れて帰って皇帝の前で歌わせると、その美しさに皇帝は感激の涙を流す。そこへ日本の皇帝からの献上品として機械仕掛けのナイチンゲールが届くが、歌っている間に、生きたナイチンゲールは宮廷から逃げ出してしまう。ナイチンゲールがいなくなると皇帝の病状が悪化し死の淵をさまようものの、ナイチンゲールが舞い戻ると皇帝は病から回復して元気になるというストーリー。

交響詩は全体を通してストラヴィンスキーらしい複雑なリズム、変拍子、精緻な描写とドラマチックな表現に溢れている。イントロダクションとそれに続く「中国の行進曲」は金属的な響きと五音音階によるアジア感で彩られ、騒々しい宮廷の様子が描かれる。フルートソロで始まる次のセクションでは、魅惑的な鳴き声を響かせるナイチンゲールと、オーボエによる技巧的な機械仕掛けのナイチンゲール

の音が拮抗。徐々に不穏な雰囲気包まれ、葬送行進曲風の音楽に変化していくが、すべてを浄化するようなトランペットの旋律に導かれて静かに幕を閉じる。

作曲／【オペラ】1908年～1914年、【交響詩】1917年 初演／【オペラ】1914年、【交響詩】1919年12月6日ジュネーブで行われた。指揮はエルネスト・アンセルメ 編成／フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2(イングリッシュホルン持替)、クラリネット2(E♭クラリネット持替)、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、タンバリン、タムタム、チェレスタ、ピアノ、ハープ2、弦5部  
使用楽譜／ブーギー&ホークス

## モーリス・ラヴェル(1875-1937) 「ダフニスとクロエ」第2組曲

「ダフニスとクロエ」はディアギレフが委嘱したバレエ作品で、2-3世紀頃のギリシャのロンゴスの同名の小説に基づく。ダフニスとクロエは相思相愛の男女。ある日クロエが海賊にさらわれるが、パン神の幻影が現れたことで海賊は怯え、逃げ去る。夜明けに再会したダフニスとクロエは、パン神がかつて愛したシリンクスへの思い出からクロエを救ってくれたという話を羊飼いかから聞き、パンとシリンクスの物語をパントマイムで表現して祈りを捧げる。最後には牧人たちが集い、全員の踊りで幕切れとなる。

旗揚げ間もないディアギレフバレエ団(のちのバレエ・リュス)のオリジナル作品を作るべく白羽の矢が立った若きラヴェルだったが、制作にはだいぶ苦戦した。ロシア人振付師のフォーキンとは言葉も通じず、ギリシャに対するイメージも共有できなかった。また、筆が早いラヴェルにしては珍しいことだが、フィナーレの「全員の踊り」が思うようにかけず、それだけで1年かかった。依頼主ディアギレフも、ラヴェルが曲を完成させられないために初演を何度も延期せざるをえなかった。また50分超えという長さもネックだった(当時のバレエの主流は30分程度)。そして合唱まで入れたいラヴェルの表現意欲との折り合いがなかなかつかなかったのである。

ラヴェルは実際こう考えていた。この作品は「3部によるバレエ振

付用シンフォニー」で、「動機を一貫して追ってゆくと、交響的な統一が保証される」と。この交響的な作品を世に出すべく、ラヴェルは前半の一部を第一組曲、ダフニスとクロエが再会する夜明けからパントマイム、全員の踊りを含む3場を第二組曲として編み直した(第一組曲の初演は、実はバレエの初演よりも前に行われている。そのことが、振付師フォーキンの怒りを買ったともいわれる)。

「夜明け」のシーンは幻想的で、微かな動きが重なりつつ徐々に輪郭がくっきりしてきて、光の変化を感じさせるような展開。「全員の踊り」はEsクラリネットが強烈な印象を与える。5拍子を基調とし、急き立てるようなリズムに打楽器も加わって爆発的なエネルギーを放ちながら大団円を迎える。

作曲／1909年6月～1912年4月5日 初演／【バレエ】1912年6月8日、ピエール・モンテウ指揮、パリ シャトレ座 ロシア・バレエ団【第二組曲】不明 編成／ピッコロ1、フルート2、アルト・フルート1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バスクラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、合わせシンバル、吊るしシンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、タンバリン、カステネット、ジュ・ドゥ・タンブル、チェレスタ、ハープ2、弦5部  
使用楽譜／カルマス

※編成は演奏の都合上、異なる場合がございます。ご了承ください。